

◆研修会特集◆

第20回日赤図書室協議会研修会報告

—— ワークショップを導入して ——

小林 美香子

抄録：日赤図書室協議会では、会員のスキルアップとネットワークづくりを目的に研修会を実施している。今回の研修会では、コンセプトを「新任者でも困らない図書業務」とし、ワークショップをプログラムに取り入れ実施した。研修終了直後のアンケート結果では、参加者は事例の内容理解にとどまらず、会員であるという共通認識をベースに互いの共通点を見つけ仲間意識を感じていた。また、参加者同士のネットワークづくりのきっかけとなり、仕事に対する動機づけの場にもなっていた。

Key Words：研修会報告、ワークショップ、新任者、図書業務

I. はじめに

2012年の日赤図書室協議会総会にて委員会体制が変更になり、今回初めて教育・研修委員会が担当する研修会を開催した。最近の本社主催の医療安全講習会や臨床研修指導医養成講習会などでは積極的にワークショップを取り入れたプログラムが展開されている。ワークショップを中心とする問題解決型の研修会は、レクチャーを中心とする知識伝達型と比較し、参加者が主体となって参加できるという長所がある¹⁾。今回、当協議会としては、初の企画であるワークショップを取り入れた研修会を実施したので報告する。

■用語の解説

ワークショップ：

講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して共同で何かを学びあったり創り出したりする学びと創造のスタイル²⁾

アイスブレイク：

初対面の参加者同士の緊張感を解きほぐすために行う、コミュニケーション促進の為のグループワークのこと³⁾

ファシリテーター：

人と人が集う場で、お互いのコミュニケーションを円滑に促進し、それぞれの経験や知恵や意欲を上手に引き出しながら、学びや創造活動、時には紛争解決を容易にしていく役割⁴⁾

KOBAYASHI Mikako

日赤図書室協議会教育・研修委員会委員

m.kobayashi@ise.jrc.or.jp

II. 開催までの準備

1. 教育・研修委員会企画会議

2012年1月、教育・研修委員会企画会議を開催した。教育研修委員会作業マニュアルには、プログラム作成上の留意点として下記4点が掲載されている。

- 1) 図書館・情報関連学会の会報・研修会の動向をチェックし、幹事の意見も参考にしながらプログラム案を作成する。
- 2) 参加者は初心者から中堅までとレベルに差があるので、偏らない工夫をする。
- 3) 研修会のコンセプトを決めて、構成を考えると、研修目的がはっきりして良い。
- 4) 基本業務と最新の話題、講義・実演と見学や座談など、内容にバラエティーをもたせることがポイント。

企画会議の参加者背景を確認すると、①非司書の割合が多い、②主事としてのキャリアはあるが、専門性の高い分野である図書に関しては素人同然であり、研修会に参加しても用語の意味すら分からない、③基本的に独り職場であり、身近なところに相談できる人がいない、④上司はいるが、自分の仕事ぶりが

認められにくいなどが挙げられた。

そこで、研修会のコンセプトを「新任者でも困らない図書業務」とした。プログラムは2部構成とし、第1部は基調講演、第2部は参加者が主体的に参加できるワークショップを取り入れた形式にした。第1部の基調講演は外部講師に依頼し、第2部のワークショップについては教育・研修委員がメインファシリテーターを、3名の会員が事例提示およびグループのファシリテーターを担当することにした(表1)。

第2部の研修目標は、①研修参加者が、明日からの仕事に活かせることを1つ以上見つけられる。②他者との交流により、自分の仕事に自信が持てるとした。

ワークショップのテーマは、実務に役立つ内容として、「利用者教育」「広報」「相互利用」の3つを選び、担当候補者への交渉を行うことにした。

2. ワークショップに向けた準備

メインファシリテーターが、3名のグループファシリテーターに対し、ワークショップ

表1 第20回日赤図書室協議会研修会プログラム

1日目	平成25年7月15日（月・祝）			日本赤十字社	日赤会館201会議室
第1部	基礎講座				
	13：05—14：05	「病院図書室に配属された担当者の事始め」			
		講師：千葉県済生会習志野病院 図書室 佐藤 正 恵			
第2部	「新任者でも困らない図書業務」				
		メインファシリテーター：小林美香子（伊勢赤十字病院）			
	14：05—14：25	事例提示「利用者教育」	発表者：塚 越 貴 子（前橋赤十字病院）		
	14：25—14：45	事例提示「広 報」	発表者：久 高 千 秋（沖縄赤十字病院）		
	14：45—15：05	事例提示「相互利用」	発表者：川 野 真 樹（京都第二赤十字病院）		
	15：05—15：15	休 憩			
	15：15—16：30	ワークショップ			
	16：30—17：00	討議まとめ			
	17：30	交 流 会			

の企画意図を伝え、ワークショップに先立って行う事例提示（講義）を依頼した。加えて、全体の流れ、グループに分かれてからのアイスブレイク、討議の進め方について大まかな進行表を作成し、提示した。

3名のグループファシリテーターは、初めての試みにも関わらず、快く引き受け、準備を進めてくれた。なお、研修参加者は、研修申し込みの段階で、ワークショップ参加の希望テーマを選定した。

Ⅲ. 第2部「新任者でも困らない図書業務」の進め方

1. 事例提示

「利用者教育」「広報」「相互利用」の3つ

のテーマについて、講義形式で事例提示を行った。これらの詳細については、本誌別稿を参照のこと。

2. ワークショップ

グループファシリテーターを含む希望テーマ別の参加者は、「利用者教育」16名、「広報」13名、「相互利用」13名であった。座席のレイアウトはグループ別のサークル型とし、机を配置せず椅子だけを並べた（図1）。最初に、グループ単位で自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行い、続いてテーマにそった討議を実施した。進行はグループファシリテーターが行い、グループの代表者がグループ討議の記録を実施した（表2）。

表2 グループ討議の実施記録

グループ別テーマ	グループ討議の内容
1 グループ テーマ 「利用者教育」	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを実施している病院は7施設 ・文献検索の時間をとって指導している病院は9施設 ・大学病院でのアンケート結果では、大学1・2年生の授業で習っているという報告があった ・50歳以上の職員限定で利用者教育を実施するとよい ・作成した資料を持参したメンバーがいたのでグループで回覧し、内容の共有をした ・看護部から図書室への依頼で、文献検索指導を始めた施設もある ・看護師への発表の手伝いや資料の提供を行い、感謝されている ・図書室は院内でのつながりが感じられる場所である ・時間外の依頼が多いが、どの施設も対応している ・限られた時間であったので、色々な病院で実施している「利用者教育」の報告を行い、共有することのみであった
2 グループ テーマ 「広報」	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌は表紙と目次のみをコピーして回覧している ・図書室カラーを作るため、オレンジ色の用紙にコピーしている ・私用コピーについては、無料、10円／枚をその場で徴収など ・パソコンのデスクトップに注意書をしている（小さい文字から大きい文字へ） ・患者図書室のパソコンの注意書を大きくした ・期待値が低いいためなのか広報紙に関し小さい文字でも文句がない ・動線上にPOPを貼るなど工夫をしている ・患者図書室はボランティア（AM、PM）、担当者がいないなど ・患者図書室の利用が少ないのは、担当者が常駐していないからなのか？貸し出ししていないことが原因なのか？ ・図書室が分かりにくい場所にあるので、オリエンテーションの際、実際に案内する ・図書室オリエンテーションは、全体研修のプログラムに入れるとよい

3 グループ テーマ 「相互利用」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者、育児短時間労働、5～10年間兼務など勤務形態が多様 ・ 2回／週の勤務、利用者が困らないようにするためにはどうすればよいか、依頼受付に手が回らない ・ 図書室以外の仕事がある（スキルアップできない） ・ 医療支援課の中で図書業務を担当していて困っている ・ 医事業務支援課と兼務であり、図書の言葉が分からない ・ 相互利用について、受付より依頼の方が多いが、受付もできるようになりたい そのためには、所蔵資料の整理、依頼内容に何かが書いてあるかが分からない 検索に慣れることが必要、Google の翻訳機能を使うとよいとの助言があった
----------------------	--



図1 ワークショップの様子



図2 全体発表の様子

3. グループ討議の共有

各グループのファシリテーターがグループの雰囲気、話題に上がった内容、どのような話し合いがなされたかを発表し、全体で共有した（図2）。

IV. アンケート結果

研修開始前に参加者42名に対し、無記名式の調査票を配布し、研修終了直後に研修室内に設置した回収箱への投函を求めた。アンケート回収率は、93%（39/42人）であった。分析については、量的データは記述統計、自由記述については意味内容の類似したものどうしを集めカテゴリー化した。

1. 受講者背景

受講者の内訳を示した（表3）。図書室経験

3年未満の者が半数、司書資格保持者は41%（16/39人）であった。

表3 受講者内訳

（単位：人）

	司書資格保持	非司書	小計
図書室経験 3年未満	3	16	19
図書室経験 3年以上	13	7	20
小 計	16	23	39

2. 事例発表に対する理解度

「利用者教育」については「理解できた・やや理解できた」と90%が回答し、「広報」についても95%が同様に回答した。「相互利用」については、「理解できた・やや理解できた」が82%であった（図3）。

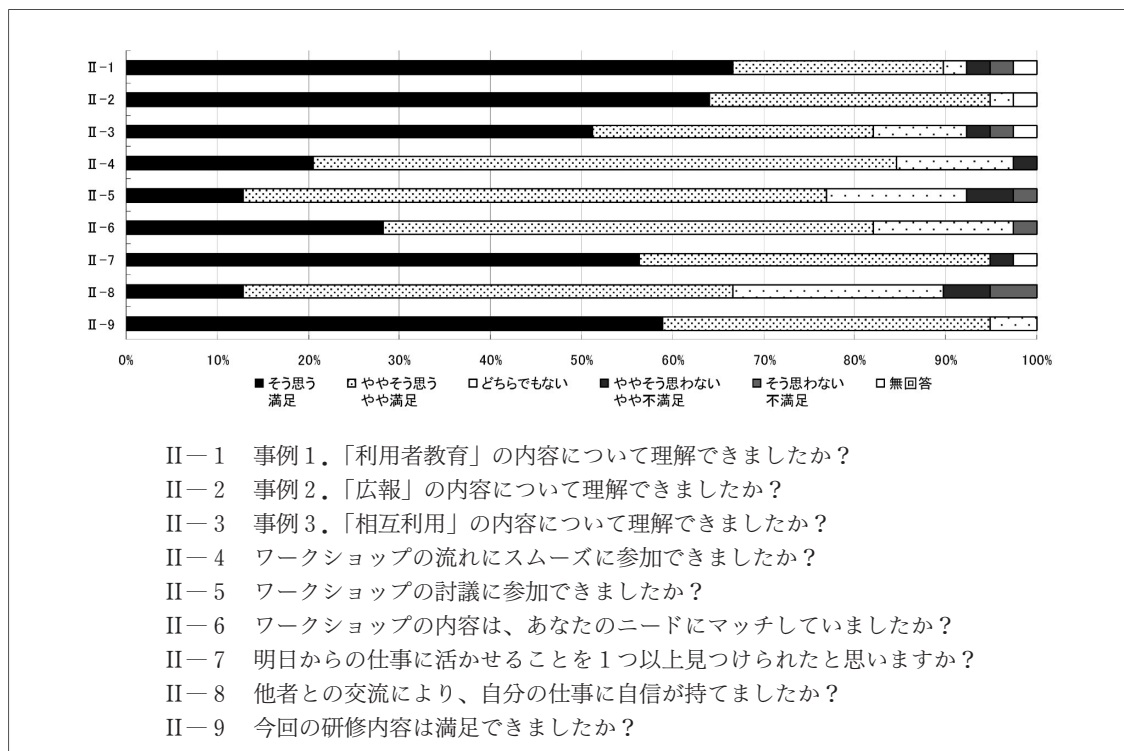


図3 「新任者でも困らない図書業務」アンケート結果

3. ワークショップへの参加状況

「ワークショップの流れにスムーズに参加できたか」については、「そう思う・ややそう思う」と回答した者は85%であった。「討議に参加できたか」については、「そう思う・ややそう思う」と77%が回答したが、「どちらでもない」15%、「ややそう思わない・そう思わない」と回答した者が8%いた。「ワークショップの内容は、あなたのニーズにマッチしていたか」については、「そう思う・ややそう思う」と回答した者は82%であった（図3）。

4. 仕事への動機づけ

「明日からの仕事に活かせることを1つ以上見つけられたと思うか」については、「そう思う・ややそう思う」と94%が回答した。「他

者との交流により、自分の仕事に自信が持てたか」には、「そう思う・ややそう思う」と67%が回答したが、「どちらでもない」23%、「ややそう思わない・そう思わない」と回答した者が10%いた（図3）。

5. ワークショップの満足度

「今回の研修内容は満足できたか」に対しては、「満足・やや満足」と95%が回答した。満足度の自由記述欄への記載割合は72%であり、「満足・やや満足」と回答した者だけが記述していた。満足度の理由を問う自由記述データからは、【知識学習】【悩みの共有】【時間管理】【現状理解】【ワークショップへの賛同】【仕事へのやる気】【難易度の設定】の6つのカテゴリーが得られた（図3）（表4）。

表4 満足度の理由

カテゴリー	デ	ー	タ
知識学習	<ul style="list-style-type: none"> ・初参加で勉強になりました ・初めて研修に参加して、学ぶべきこと、収穫が多かったから ・図書業務について知らないことばかりだったので、とても勉強になった ・私のような新任者も多かったですが、経験豊富な方もたくさんいらして参考になりました ・文献検索講座実施日が近くあるので、得た情報等を是非活用したい ・図書室業務について知識が全く無かったので、色々教えていただきありがたかったです ・他施設の方のお話を聞けて、当院にも活かせる部分を見つけることができたため ・良い刺激を受けることができたため。他施設の取り組みで参考になる点が多々あったため ・塚越さんの他者評価をおそれずに…の言葉が1番心に残りました ・持ち帰って、生かせる情報を得ることができた為 ・他病院で工夫されている研修が勉強になった。プレゼン方法も勉強になった ・もう少し時間がほしかった。医師向けのオリエンテーションを予定しているので、そのあたりを勉強したい ・どこの施設でも悩んでいることが同じだったので、意見交換できたことがとてもよかった ・日常業務に役立てる知識を得ることができたから 		
悩みの共有	<ul style="list-style-type: none"> ・担当が一人なので、どうしたらよいのか悩んでいました ・事例発表を聞き、方向が見えてきました ・HPに研修内容をのせていただくとさらに今後、図書館に入る人々の助けになると思います ・それぞれの病院で困難がありながらも、工夫して改善している図書館が多いことを知れて良かったです ・同じような悩みを持っている人がいることがわかり、やる気につながった ・研修会に参加させていただいて、初めてワークショップを経験し、とてもよかった 		
時間管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップで話し合う時間が短かったので、次回はもっと時間を多くとって頂ければもっと充実すると思います ・時間が思っていた以上にかかってしまい、話し合いがスムーズに進まなかった ・ワークショップ時にもう少し時間があれば良かった 		
現状理解	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の現状がわかりました ・初めての参加で不安がいっぱいでしたが、それぞれの施設に合ったやり方でよいことが分かり、今後どうしていけばよいか分かるようになりました 		
ワークショップへの賛同	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップのような参加型が講義形式だけより充実感があってよい ・参加型でできたことがよかった 		
仕事へのやる気	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の仕事について、再度情熱を持ってそうな気がします 		
難易度の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し掘り下げたこともやってほしい 		

6. 今回のワークショップで一番印象に残ったこと

自由記述の記載割合は70%であった。【仕事

へのやる気】【参考事例】【悩みの共有】【顔の見える関係】【ワークショップへの賛同】【内容理解】【自施設との比較】の7つのカテゴ

表5 今回の研修で一番印象に残ったこと

カテゴリー	データー
仕事へのやる気	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫により改善できる点も多いこと、考え方によって変えることができることがあることに気づかされました ・図書の仕事に対し、不安と自信のなさでいっぱいであったが、皆様の発表や意見をお聞きして、その志の高さや熱意に感動し、自分も頑張ろうと思えた ・皆さんが日々業務に取り組み（前向きに）努力する姿を伺うことができ、よい刺激を受けました ・図書業務のウエイトが軽く、少し悲観になっていましたが、自分がやれる事が見えてきたこと ・自分から行動を起こすことが大切。まずは研修やPOP作りなど、図書室を利用しやすくするために動くことだと思いました ・兼任されている方が多い中でも、みなさん前向きな考えが多いのが励みになりました ・全ての内容で初心に戻った気がしました
参考事例	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設でやられているオリエンテーションを当院にも取り入れたい ・利用者案内についての他施設の取り組み ・利用者教育、広報、相互利用についての事例提示 ・場所や予算がなくとも工夫すること ・事例「利用者教育」では、研修医に対する図書館研修 ・沖縄赤十字病院の図書室広報はとても参考になった ・利用者教育での話が興味深かったです。資料をみてみたいと思いました
悩みの共有	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさんが同じような悩みを持っていて、それについてどうにかしようと考えてらっしゃったこと ・同じ悩みを共有できた ・病院図書室運営が大変なのは、どこの病院でもあるんだという事 ・どこも大変な中で頑張っているのだとわかりました（自分の館だけでなく）情報が共有できてよかったと思います
顔の見える関係	<ul style="list-style-type: none"> ・顔を見てお話できたこと ・グループ分けで自己紹介ができたことにより、会員の顔と名前がおぼえられた ・図書業務に就いて間もない人が自分を含め、かなり（予想以上に）多かった
ワークショップ形式への賛同	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップでみなさんの意見がきけたこと ・担当者の生の声がきけたこと
内容理解	<ul style="list-style-type: none"> ・相互貸借のしくみ ・相互検索の仕方についてもいろいろ教えて頂き、この会に参加できてとてもよかったです
自施設との比較	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設の図書のレベルが高いことにおどろきました

リーが得られた（表5）。

た（表6）。

7. 教育・研修委員会に対する意見・感想

自由記述の記載割合は46%であった。【難易度の設定】【ワークショップへの賛同】【時間管理】【研修会の意義】【仲間への承認】【不参加者への配慮】の6つのカテゴリーが得られ

V. 考察

今回、日赤図書室協議会研修会では初の試みとして、ワークショップをプログラムに取り入れた研修会を実施した。研修会全体のプログラムは、第1部は基礎講座「病院図書室

表6 教育・研修委員会に対する意見・感想

カテゴリー	データー
難易度の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初心者向けで大変助かりました。来年度も難しくない内容もあると良いなと思います ・未経験の方も多く（私を含めて）わからない事例も多くて、少し安心しましたこれからわからないことをいろいろ聞いておきたいと思います ・知識の浅い自分には、今回のような初歩的な内容がとても身になり、話を聞いていても楽しかったです ・毎年、新人が参加すると思うので基本的な事を1つでも加えることはいいと思う。しかし、新しいことも取り入れてほしい
ワークショップ形式への賛同	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは良かったです。自分の意見が言いやすかったです ・ワークショップ形式は、現実的で実際に仕事で活用できる情報があっていいと思った。次回研修では、図書館見学をとり入れてほしい ・ワークショップ、楽しかったです
時間管理	<ul style="list-style-type: none"> ・事例報告1つ1つがもう少し時間がほしい ・意見交換の時間が、もう少し長いとよかった ・もう少し時間が欲しいと思いました
研修会の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・とても有意義な研修でした。図書業務はどんどん発展すると思います ・研修会が年に1回だけなのは残念です。他の赤十字の図書室の様子など、うかがえる機会なので、とても貴重な時間をすごす事ができます
仲間への承認	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さん熱心ですばらしいと思いました
不参加者への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加できない人もいると思うので、終了後 HP に内容をのせていただけるとよいと思います

に配属された担当者の事始め」(講師：千葉県済生会習志野病院図書室 佐藤正恵氏)、第2部は、事例提示(講義)後、ワークショップを実施した。ここでは、研修会の企画を担当した教育・研修委員会の立場から、第2部の評価を行う。

研修会のコンセプトは「新任者でも困らない図書業務」であり、事例提示の難易度を新任者用に設定した。このことにより、「利用者教育」「広報」についての理解度は9割以上であった。「相互利用」の理解度についても8割以上であったが、「利用者教育」「広報」に比較するとやや難易度が高かったようである。これは、参加者の4割が、非司書かつ図書実務経験3年未満の者であったことが要因であると考えられた。しかし、研修内容そのものは、「相互利用」を日常業務とする者には必須

の知識であり、その知識を持たない者が、業務を担当せざるを得ない状況にあることが実態として把握できた。人事については、それぞれの施設の考え方によるものであるが、研修会開催時点で新年度開始3ヶ月が経過しており、利用者に対するサービスの質に問題が生じているのではないかと危惧された。

教育・研修委員会に対する意見・感想には、**【難易度設定】**として「初心者向けで大変助かった。来年度も難しくない内容もあると良いなと思う」「知識の浅い自分には、今回のような初歩的な内容がとても身になり、話を聞いていても楽しかった」などがあった。一方、「毎年、新人が参加すると思うので基本的な事を1つでも加えることはいいと思う。しかし、新しいことも取り入れてほしい」との意見もあり、参加者背景が初心者～熟練者と幅

広い層の中で、受講者のレディネス（準備状態）に応じた研修会を企画することの難しさを感じた。

ワークショップについては、各テーマの事例提示者がグループのファシリテーターを務め、アイスブレイク後、各テーマについての討議を進行した。その結果、約8割がワークショップの流れにスムーズに入れ、討議に参加できたと回答していた。残りの2割については、テーマに関する知識不足、ワークショップに慣れていないことなどが理由であると推測された。また、約8割がワークショップの内容が受講者ニーズにそったものであったと回答していた。これは、受講者が事前に希望テーマを選択し、受講者ニーズに応じたグループに参加できた結果であると考えられた。

「明日からの仕事に活かせることを1つ以上見つけられたと思うか」については、「そう思う・ややそう思う」と94%が回答した。しかし、「他者との交流により、自分の仕事に自信が持てたか」には、「そう思う・ややそう思う」との回答が67%に留まった。これは、事例提示後の質疑応答時間を予め設定していなかったため、時間管理がうまく行えず、ワークショップの時間が予定より短くなってしまったことが影響要因であると考えられた。この経験から、研修目標を達成するためには、クッションタイムと呼ばれるフリーの時間をプログラム中に確保し⁵⁾、余裕を持ったプログラム構成にする必要があると分かった。

第2部のプログラム全体の満足度は95%と高かった。満足度の理由の肯定的な内容としては、【知識学習】【現状理解】【悩みの共有】【仕事へのやる気】【難易度の設定】があり、改善提案としては【時間管理】があった。

また、「今回のワークショップで一番印象に残ったこと」の設問に対しては、全て肯定的な記述であり、【仕事へのやる気】【参考事例】【悩みの共有】【顔の見える関係】【ワークショップ形式への賛同】【内容理解】【自施設との比較】の7つのカテゴリーが得られた。

ワークショップを取り入れた研修は、日赤図書室協議会の会員であるという共通認識をベースに、互いの共通点を見つけ、仲間意識を感じる機会にもなっていた。また、所属組織では独りで仕事をする多くの参加者のネットワークづくりのきっかけとなっており、仕事に対する動機づけの場にもなっていた。

VI. 結論

参加者が主体となって参加できるワークショップを取り入れた研修の構成はよかったが、時間配分に課題が残った。

今後は、司書資格保持者である日赤図書室協議会会員からのアドバイスを得ながら、日本赤十字社の図書室全体としてベースアップが図れるよう、ワークショップをプログラムに組み入れた研修を積極的に企画していきたい。

参考文献

- 1) 堀 公俊, 加留部貴行, 教育研修ファシリテーター, 1版, 東京: 日本経済新聞出版社; 2013. pp.22-23.
- 2) 中野民夫, ワークショップ, 1版, 東京: 岩波書店; 2001. pp.10-13.
- 3) 前掲1), pp.116-117.
- 4) 前掲2), pp.146-148.
- 5) 前掲1), p63.